
2022 ～ 2023 部長方針・活動計画

阪和部部長 正野忠之（大阪泉北）

1. 部長主題

10年後の阪和部へ。つなげる。～経験を生かし、目線を活かす～

2. 活動方針

10年前、阪和部長を経験しました。その時の標語が、「10年後の阪和部へ。つながる。」でした。期待を込めて作った標語でしたが、阪和部はここ10年でクラブ数を2つ減らし、会員数も100名前後まで減少しました。部長の担い手も輪番制では行きつかなく、部の財政も厳しくなってきました。33年続いてきた阪和部はどうなっているのか。私たちの経験だけでワイズは生き残っていけるのか。

世間では「つなぐ」「つなげる」がキーワードになっています。

世代交代。阪和部の将来構想として、ここ数年、次世代への働きかけを行ってきた結果、次々期の阪和部長は、現在40歳のメンバーへバトンが渡されます。探せば見つかる次世代メンバー。ワイズメンズクラブの良さを生かすために、ベテランが次世代を支えていく構図を作るための1年としたい。ベテランの経験を生かして、次世代の目線を活かす。次世代の人たちの目線が新しい阪和部を作り、若者が若者を呼ぶ活動を生み出し、阪和部がつながっていくことを使命に活動を行っていきます。部長として私はつなぎ役に徹します。起承転結の「承」です。

3. 活動計画

部より常に事業の情報発信を行う。事業主任と事業主査の直接的な関係を大切にして活動

1. YMCAサービス・ユース事業

- ・西日本区理事、YMCA サービス・ユース事業主任の方針を踏まえた活動の構築。
- ・大阪 YMCA、奈良 YMCA、和歌山 YMCA それぞれで YYY フォーラムを実施。
- ・3Y でユースリーダーの相互交流を企画支援し、リーダー力をサポートする。
- ・3Y のチャリティーランを支援。

2. 地域奉仕・環境事業

- ・西日本区理事、地域奉仕・環境事業主任の方針を踏まえた活動の構築。
- ・環境事業：SDGsへの関心を高める。クラブごとに目標を選択し実践。

3. EMC事業

- ・西日本区理事、EMC 事業主任の方針を踏まえた活動の構築。
- ・阪和部将来構想と絡め、次世代の交流を活発にし、若者が若者を呼ぶ構図を作る。
- ・そのための施策を各クラブへ求めていく。
- ・次世代につながる複数年計画を策定。

4. 国際・交流事業

- ・西日本区理事、国際・交流事業主任の方針を踏まえた活動の構築。
- ・オンライン DBC、IBC の積極交流、情報発信。

5. ネット事業

- ・直前部長提案のネット計画を引き継ぎ、委員会の位置付けで次期において活動できるよう構築する。
-

4. 部行事予定

- ・評議会 4回を大阪、奈良、和歌山の3地域で行う。
(6月和歌山、10月大阪、2月奈良、6月大阪)
- ・阪和部将来構想「焼肉の会」：支援者を得て随時開催。次世代の交流活性化。
- ・EMC シンポジウム：次世代をテーマにリモートも使い、活性化を図る。

5. その他の計画・特記事項

- ・次世代目線でワイズ活動を見直していく。将来構想→「起承転結」の「転」へ。
- ・YMCA との取り組みも次世代目線で見直す。対等な協同。
- ・5年継続事業の掘り起こし。策定。(例) こども病院支援
- ・阪和部予算の徹底見直し。
- ・部長トロイカ方式の継続を維持。
- ・新設「阪和部長活動費」「阪和部長活動報告書」の試験運用。

6. 部役員

役職	名前	所属クラブ
部長	正野忠之	大阪泉北
次期部長	内藤陽介	和歌山
直前部長	大谷 茂	和歌山紀の川
書記	濱口洋一	和歌山
会計	高井亮吉	奈良
事務局	出原廣太	大阪サウス
担当主事	菅 秀晃	大阪 YMCA
	村上一志	奈良 YMCA
	藤田りか	和歌山 YMCA
監事	中井信一	奈良

7. 事業主査

役職	氏名	クラブ名
Yサ・ユース	中井正博	大阪泉北
地域奉仕・環境	東 正美	和歌山
EMC	寺岡博也	大阪サウス
国際・交流	坂本 智	和歌山紀の川
阪和部将来構想	遠藤通寛	大阪泉北
広報	横田憲子	大阪河内

8. クラブ会長

和歌山	前畑壮志
奈良	四本英夫
大阪サウス	久岡美弘
大阪河内	丸尾欽造
大阪長野	福田智也
大阪泉北	河崎洋充
和歌山紀の川	向井貞隆